

「聖霊の賜物を受けよ」

イザヤ書
使徒行伝

第44章 1節～5節
第2章 37節～42節

説教 岡村 恒 牧師

「イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。」(38節)ペンテコステの日に響いた約束です。罪の赦しの洗礼を受けると、神の賜物として聖霊を受ける。この日、弟子たちはこの約束を体験しました。

主イエスは、最後の夜に、「わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。」(ヨハネによる福音書 16章7節)と約束されました。この時、弟子たちにはこの約束の意味が少しも分かりませんでした。しかし、やがて真理の御霊が降った時、主イエスの約束は実現しました。全世界のキリスト教会は、この聖霊なる神を信じています。

主イエスは、「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。」(ヨハネによる福音書 14章16節～17節)とも約束されました。父なる神と子なる神と聖霊なる神は、この世界が創られる前から一つであられ、そして、唯一の神です。聖霊なる神、助け主なる聖霊が注がれて、いつまでもあなた方と共にいる、という主イエスの約束が今も守られています。

主イエスは、「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。」(ヨハネ 14章18節)と言われ、天に昇った後、助け主を送って下さいました。「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない。」(コリント人への第一の手紙 12章3節)と記されている通り、ペンテコステ以来、主イエスを信じる者が次々と起こされてきました。今、ここで礼拝が行われ、私たちがここに居るのは、聖霊なる神が、確かに今も生きて働いておられるからです。

一人の人が、イエスは主であると告白して洗礼を受ける時、その信仰によって罪を赦され、神の子として、新しく生き始めます。その日から、聖霊なる神はこの人の内側に宿って、聖霊の宮としてその人を生かして、決して離れることはありません。それが洗礼を受けることの意味です。空っぽのコップに水が一杯に注ぎ入れられるように、弟子たちのように聖霊に満たされると、その人の内には、主の霊以外のものが入る余地など残りません。疑いや迷い、不信仰でさえ押し出されてしまいます。そうして、神の国に国籍を持つものとして地上を旅します。

ペンテコステの日、聖霊が弟子たちに降って、真理が明らかになりました。聖霊が降ると、弟子たちは隠れていた家から出て行って、人々に主イエスのことを話し始めました。その全存在が聖霊の宮へと変えられて、じっとしていることができなくなったからです。そして、主イエスを救い主として信じるようにと、呼びかけ始めました。人々は心を強く刺されて、「どうしたらよいのでしょうか?」と問いかけました。もう自分自身の力では、罪の壁をどうすることもできないことを知ったからです。この魂の叫びが、今も世界中を覆っています。本当の平安を手し、希望を持って生きるためには、いったいどうしたらよいのか?と。

この問いへの答えは単純です。「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。」(38節)

聖書は、人生全部を費やしても、神の赦しと無関係なまなから、全てが無駄だと語ります。(コリント人への第一の手紙 第13章1節以下)聖霊なる神は私たちを、神のものへと変えてしまいます。徹底的に神に愛されてしまったので、神を愛する以外のことはできなくなる、そういう生き方へと、私たちが招き入れて下さいます。

本当なら、私たちが神に愛されることなど、とうていあり得ないことです。しかし神は、ひとり子、主イエス・キリストを十字架に架けてまで私たちが愛し抜いて下さいました。全世界をお創りになり、支配しておられる神が、私たちに向かって、あなたは私の目には高価で貴い、と宣言して下さいます。

今日、教会学校では、教会の誕生パーティをしました。誕生日のお祝いは、今、この私がここにいることを神に感謝するものです。あの日、弟子たちに聖霊が降った「聖霊降臨」が起こったので、今、私たちはここにいます。そして私たちも今日ここから、神を指さず神殿、聖霊の宮として光り輝きながら、用いられて歩んでいきます。

主イエスが十字架にかかって血を流し、聖書の約束をその命をかけて実現して下さいましたので、聖霊なる神が私たちに注がれ、私たちに信仰を与え、罪赦された神の子として歩ませて下さっています。

(記 岡村 恒)